

浜松市こころの健康フォーラム
「私がもっと生き生きするためにー当事者主権で地域が変わるー」
のアンケート結果から

浜松市精神保健福祉センター

平野 聖枝

1 はじめに

平成 19 年 12 月 19 日に政令指定都市移行記念・浜松市こころの健康フォーラム「私がもっと生き生きするためにー当事者主権で地域が変わるー」がアクトシティ浜松コングレスセンター41 会議室に於いて開催された。

前半は講演（東京大学教授 上野千鶴子氏）、後半はシンポジウム（精神障がい当事者、DV 当事者、自死遺族当事者）という 2 部構成であった。

講演及びシンポジウムの評価、参加者のニーズを探るために、アンケート調査を実施した。

仮説としては、来られた方の関心領域（精神障がい、DV、自死遺族）によって講演やシンポジウムの評価が異なるのではないかと考えた。

参加者数及び回収率については、以下の通りであった。

参加者	270 名	
アンケート対象の参加者	253 名	（センター職員、シンポジスト、司会などの関係者 17 名を除く）
アンケート回答者	179 名	（回収率 70.8%）

2 基礎集計

（1）性別

女性が 139 名（77.7%）と多かった。

Tabel 1 性別

	人数	%
男性	37	20.7
女性	139	77.7
不明	3	1.7
合計	179	100

(2) 年代

50代が59名(33.0%)と最も多く、続いて40代の40名(22.3%)、60代の27名(15.1%)の順であった。

Tabel 2 年代

	人数	%
10代以下	0	0
20代	16	8.9
30代	24	13.4
40代	40	22.3
50代	59	33.0
60代	27	15.1
70代	9	5.0
80代以上	0	0
不明	4	2.2
合計	179	100

(3) 住まい

浜松市中区が69名(38.5%)と最も多く、続いて、その他の23名(12.8%)、浜松市西区の19名(10.6%)の順であった。

Tabel 3 住まい

	人数	%
浜松市中区	69	38.5
浜松市東区	17	9.5
浜松市西区	19	10.6
浜松市南区	14	7.8
浜松市北区	12	6.7
浜松市浜北区	17	9.5
浜松市天竜区	8	4.5
その他	23	12.8
不明	0	0
合計	179	100

(4) 職業

パート・アルバイトが 33 名 (18.4%) と最も多く、続いて、会社員と主婦・主夫が共に 27 名 (15.1%) であった。尚、その他の 21 名 (11.7%) には施設職員、PSW、看護師など関連職種が含まれていた。

Tabel 4 職業

	人数	%
会社員	27	15.1
自営業	6	3.4
公務員	14	7.8
教員	16	8.9
主婦・主夫	27	15.1
パート・アルバイト	33	18.4
無職	18	10.1
学生	7	3.9
その他	21	11.7
不明	10	5.6
合計	179	100

(5) こころの健康フォーラムについて知った方法

知り合いの勧めが 50 名 (27.9%) と最も多く、続いて、ちらしの 49 名 (27.4%)、広報はままつの 25 名 (14.0%) であった。

Tabel 5 こころの健康フォーラムについて知った方法

	人数	%
ちらし	49	27.4
ポスター	24	13.4
広報はままつ	25	14.0
知り合いの勧め	50	27.9
新聞	8	4.5
その他	19	10.6
不明	4	2.2
合計	179	100

(6) 講演について

「とても良かった」が103名(57.5%)と最も多く、続いて、「良かった」53名(29.6%)、「普通」14名(7.8%)の順であった。

Tabel 6 講演について

	人数	%
とても良かった	103	57.5
良かった	53	29.6
普通	14	7.8
あまり良くなかった	4	2.2
全く良くなかった	0	0
不明	5	2.8
合計	179	100

(7) シンポジウムについて

「とても良かった」が76名(42.5%)と最も多く、続いて、「良かった」54名(30.2%)、「普通」11名(6.1%)の順であった。

Tabel 7 シンポジウムについて

	人数	%
とても良かった	76	42.5
良かった	54	30.2
普通	11	6.1
あまり良くなかった	3	1.7
全く良くなかった	0	0
不明	35	19.6
合計	179	100

(8) 最も関心のある領域（１つだけ選ぶ）

「精神障がい」が71名（39.7%）と最も多く、「DV被害」が33名（18.4%）、「自死遺族」が26名（14.5%）であった。尚、1つだけ選ぶことはできず、すべてに○をつけられた方が13名（7.3%）いた。

Tabel 8 最も関心のある領域

	人数	%
精神障がい	71	39.7
DV被害	33	18.4
自死遺族	26	14.5
その他	9	5.0
精神、DV、自死すべて	13	7.3
不明	27	15.1
合計	179	100

(9) 関心のある領域

① 精神障がい

「精神障がい」に関心のある方は107名（59.8%）であった。

Tabel 9 関心のある領域（精神障がい）

	人数	%
精神障がいに関心あり	107	59.8
精神障がいに関心なし	72	40.2
合計	179	100

② DV被害

「DV被害」に関心のある方は64名（35.8%）であった。

Tabel 10 関心のある領域（DV被害）

	人数	%
DV被害に関心あり	64	35.8
DV被害に関心なし	115	64.2
合計	179	100

③ 自死遺族

「自死遺族」に関心のある方は 57 名 (31.8%) であった。

Tabel 11 関心のある領域 (自死遺族)

	人数	%
自死遺族に関心あり	57	31.8
自死遺族に関心なし	122	68.2
合計	179	100

④ その他

「その他」に関心のある方は 16 名 (8.9%) であった。尚、「その他」には不登校、ひきこもり、虐待、高齢者、知的・身体障がい等の記載があった。

Tabel 12 関心のある領域 (その他)

	人数	%
その他に関心あり	16	8.9
その他に関心なし	163	91.1
合計	179	100

3 性別、年代と関心のある領域との関連

(1) 性別と関心のある領域との関連

性別と関心のある領域に差が認められた [χ^2 (4, N=149) = 11.823, $p < .05$]。

Tabel 13 性別と関心のある領域

		最も関心のある領域					合計
		精神障がい	DV 被害	自死遺族	その他	すべて○	
性別	男	19	1	4		3	27
	女	49	32	22	9	10	122
合計		68	33	26	9	13	149

(2) 年代と関心のある領域との関連

年代と関心のある領域に差が認められた [χ^2 (20,N=149) =32.543,p<.05]。

Tabel 14 年代と関心のある領域

		最も関心のある領域					
		精神障がい	DV被害	自死遺族	その他	すべて〇	合計
年代	20代	6	7		1		14
	30代	7	7	5	1	2	22
	40代	17	3	7	5	3	35
	50代	19	13	7	2	6	47
	60代	15	2	5		1	23
	70代	7		1			8
合計		71	32	25	9	12	149

4 講演とシンポジウムの関係

講演シンポジウムには、1%水準で有意な弱い正の相関 [$r=.375$] が認められた。

5 関心のある領域と講演、シンポジウムの評価との関連

講演、シンポジウムの評価について 5 件法（とても良かった・良かった・普通・あまり良くなかった・全く良くなかった。5～1 点で得点化）で行った。

(1) 精神障がい

精神障がいに関心がある方と関心がない方の間に講演、シンポジウムの有意差は認められなかった。

Tabel 15 関心のある領域（精神障がい）と講演、シンポジウムの評価との関連

	精神障がい				
		関心あり	関心なし	df	t 値
講演	M	4.51	4.40	172	0.96
	SD	0.72	0.77		
	N	104	70		
シンポジウム	M	4.47	4.31	142	1.32
	SD	0.66	0.81		
	N	89	55		

(2) DV被害

DV被害に関心のある方は関心のない方に比べ、講演の評価が高かった。これについて、t検定を行ったところ、1%水準で有意差が認められた [$t(162.56) = 3.41, p < .01$]。

尚、シンポジウムの関しては、有意差は認められなかった。

Tabel 16 関心のある領域 (DV被害) と講演、シンポジウムの評価との関連

	DV被害				
		関心あり	関心なし	df	t 値
講演	M	4.69	4.34	162.56	3.41* *
	SD	0.56	0.80		
	N	62	112		
シンポジウム	M	4.51	4.34	142	1.33
	SD	0.63	0.78		
	N	57	87		

* * $p < .01$

(3) 自死遺族

自死遺族に関心がある方は関心がない方に比べ、講演の評価が高かった。これについてt検定を行ったところ、5%水準で有意差が認められた [$t(129.95) = 2.02, p < .05$]。

また、自死遺族に関心のある方は関心のない方に比べ、シンポジウムの評価が高かった。これについてt検定を行ったところ、1%水準で有意差が認められた [$t(132.01) = 3.06, p < .01$]。

Tabel 17 関心のある領域 (自死遺族) と講演、シンポジウムの評価との関連

	自死遺族				
		関心あり	関心なし	df	t 値
講演	M	4.62	4.39	129.95	2.02*
	SD	0.62	0.78		
	N	55	119		
シンポジウム	M	4.63	4.29	132.01	3.06* *
	SD	0.52	0.78		
	N	49	95		

* $p < .05$ * * $p < .01$

6 まとめ

参加者は、女性、40代～60代の中高年、開催場所である浜松市中区に住んでおられる方、職業はパート・アルバイトが多かった。このフォーラムについて知った方法として、知り合いの勧めが最も多かったことから、今後の周知の仕方の検討も必要であろう。

講演は「とても良かった」が50%を超え、シンポジウムは「とても良かった」が40%を超えたことは評価できる結果である。

講演とシンポジウムではゆるやかな相関が認められた。つまり、講演で当事者主権についての理論的な話しをしていただいた後、シンポジウムで3領域の当事者に登壇してもらうことで、少し幅が出ているものと思われた。

DV被害に関心のある者は、講演の評価が高く、自死遺族に関心のある者は、講演、シンポジウムともに評価が高かったということは興味深い。上野氏の講演がDV被害者、自死遺族には評価が高く、また、様々な領域（精神障がい、DV、自死遺族）の当事者が登壇したシンポジウムでは、自死遺族が感銘を受けられた方が多かったものと思われる。

但し、参加者の関心のある領域では、精神障がいが最も多かったが、精神障がいに関心のある者と関心のない者の間に講演、シンポジウムの評価の差はなく、DV被害や自死遺族に比べても低い評価であった。つまり、精神障がいに関心のある方にとっては、講演、シンポジウム内容があまり興味をもてなかった可能性も考えられ、今後の検討課題であるものと思われた。